

会 議 要 旨 (意見要旨)

会議の名称	第7期 第5回新宿区男女共同参画推進会議
開催日時	平成29年10月11日(水) 午後2時～午後4時40分
開催場所	ウィズ新宿 3階
議長(会長) 氏名	早稲田大学文学学術院 教授 村田晶子委員
出席者(委員) 氏名(人数) 敬略称、順不同	<p>神奈川大学法学部教授 井上匡子委員 公募区民 杉本恵委員 公募区民 狩野さやか委員 株式会社ホテル小田急 砂子弘樹委員 民生委員・児童委員協議会 國谷寛司委員 青少年育成委員会 田邊一枝委員 区立中学校PTA連合会 服部珠美委員 公共施設利用団体 渡辺久枝委員</p> <p>計9名</p>
欠席者(委員) 氏名(人数)	<p>県立広島大学経営専門職大学院教授 木谷宏委員 株式会社チェックメイト 藤沢薫委員 区立小学校校長会 持田裕代委員 区立中学校校長会 東孝夫委員 町会連合会 前田昇委員 公募区民 渡辺修委員</p> <p>計6名</p>
事務局の出席者	<p>橋本 隆(子ども家庭部長)、北沢 聖子(男女共同参画課長) 山内 浩恵(男女共同参画主査)、鈴木 浩司(男女共同参画主査) 武井 秀太 株式会社グリーンエコ(2名)</p>

発言者	内容
次第1 開会	
次第2 議題 「新宿区第三次男女共同参画推進計画」(素案)について	
事務局	資料「第7期第4回新宿区男女共同参画推進会議 第三次男女共同参画推進計画策定に向けた意見に対する取組み」について説明。
村田会長	新宿区の男性職員の育休業の取得率が7.1%。現状の課題を分析したことはあるか。
事務局	今後実施予定。27年度よりも28年度の方が低い。
事務局	事前配布資料「新宿区第三次男女共同参画推進計画(素案)」について説明。
狩野委員	57ページの事業48 妊娠期からの子育て支援について、男性が含まれてこない。妊婦だけではなく、男性育児参加に対する内容等が見えてこない印象。また、子育ては女性のイメージが強く、その辺りが根深そう。
事務局	父親学級や両親学級を区で行っている。事業48については健康面の支援が主な内容になっており、男性の育児参加等の視点は見えづらいものとなっている。男性の育児参加については、今後も講座や『ウィズ新宿』等を通じてアプローチしていく予定。
服部委員	カラーになって見やすい。右側にラベルを付けて捲りやすいようにするのはどうか。
狩野委員	小中学生への啓発方法とは、具体的に何か。
事務局	現在小学5年生への啓発冊子の配布に加え、来年度は中学生向けに出前授業を検討中。その内容に基づいて、31年度以降、中学生向けの啓発冊子を教育委員会と作成予定。
井上副会長	16ページの全体図は、目標5だけ浮いてしまっているイメージ。ここは、この計画の中で重要なところであり、ジェンダーの視点から全庁の政策を見直していくようなものにあたる。理念の整理という意味でも、少し工夫が必要。地域に関しての事業が少なく感じる。新宿区の特異な世帯事情も含めて地域の問題はとても大きい。
村田会長	職員の学習機会や男女共同参画の横断的な意識、チェック機能について。
事務局	新人研修・人権研修でLGBT等の文言や窓口対応の注意点等を、全庁的には男女平等講座を実施。昨年度は原ミナ汰さんの講演を区民・職員向けに実施。外部団体と連携して、講座等も行っているが、チェック機能については行政推進連絡会議などで副区長から各政策に対し、男女共同参画の視点を取り入れるよう声を掛けているが、体制として見えてこないのは確かである。
井上副会長	男女共同参画関係の苦情処理について。
事務局	一般の苦情処理と同様。
田邊委員	5ページの家族類型別世帯数の「夫婦、子供と片親から成る世帯」という言葉にあたる続柄について。

事務局	国政調査の統計を元に記載しているが、今後記載方法を工夫する。
杉本委員	全体的にカタカナ用語が多いため、伝えたい人たちに伝わらない可能性がある。視覚的に入っていけるような注釈をどこかに載せた方が良いのでは。
事務局	用語集掲載予定。現在、フォーマットを検討中。
杉本委員	子供向けの啓発冊子の発行等、男女共同参画の言葉や意識と無縁な生活をしている方に啓蒙してほしい。
事務局	子供向け冊子の検討。この計画に限らず、幅広い方に響くような啓発を目指している。
村田会長	学生インターンの受入れについてはどうか。学生自身が日頃使う言葉や感覚、目にするもの等すごく意味を持っていて、私達ではなかなか目に入らない、聞き取れない言葉がある。そういったところで、若者ととともに取り組むのも一理ある。学生同士の会話の中には人権感覚を疑うような話もある。留学先で遊んで病気になった話等も。学生自身が勉強するためにも必要ではないかと思う。
事務局	ウィズ新宿は公募区民で作ってもらっているが、この計画での公募は考えていなかった。発信方法は冊子だけではなく、私達が思いつかない他のやり方があるかもしれない。この計画後、どういった形で発信するかについて、若者に届く方法を考えいきたい。また、男女の視点だけではなく、健康部と連携し、学生・若い方に向けて病気の知識も加えて発信したい。
田邊委員	出前授業について。以前、中学校でガン講習を行った際、事前アンケートをすることで、生徒と一体化し、講習にとっても集中していた。今後、出前授業をする際は事前アンケートを行うことを勧める。
事務局	来年度1回しか出来ない現状があるが、開催のタイミングを測りたいと思う。前回は夏休み後に実施している。実際に家庭内で親の暴力を目にしている子どもがいる可能性を考えると、非常にデリケートな問題でもあるため、フォローを行いながら授業を行いたい。
会長	教員向け講習について。
事務局	都で実施。性的マイノリティについては、文科省であるため養護教諭向けに実施している様子。
狩野委員	「ともにかがやく」のかがやくという言葉に、当事者の女性たちは拒否反応を示すこともある。かがやくことを強要されているように感じる方もいるため、使い方が難しい。
渡辺委員	ワーク・ライフ・バランスについて、憲法の中に働く権利と義務があることや、労働権や団結権があること等、働く人自身に権利があることをもっと知ってほしい。
事務局	それを踏まえて今回、目標2を「ワーク・ライフ・バランスと働き方改革の推進」に修正し思いを込めている。ワーク・ライフ・バランスを取り込んでいくためには、働き方を変えなければならないということにつながる。
次第3 報告 「DV相談ダイヤル」の開設について	

事務局	パンフレット等を用いて説明。
井上副会長	外国語バージョンについて。
事務局	今後作成予定。窓口では対応可。
次第4 その他	
事務局	1000日前イベントのお知らせと、配布冊子に掲載されている若者のつどいのイベントのお知らせ